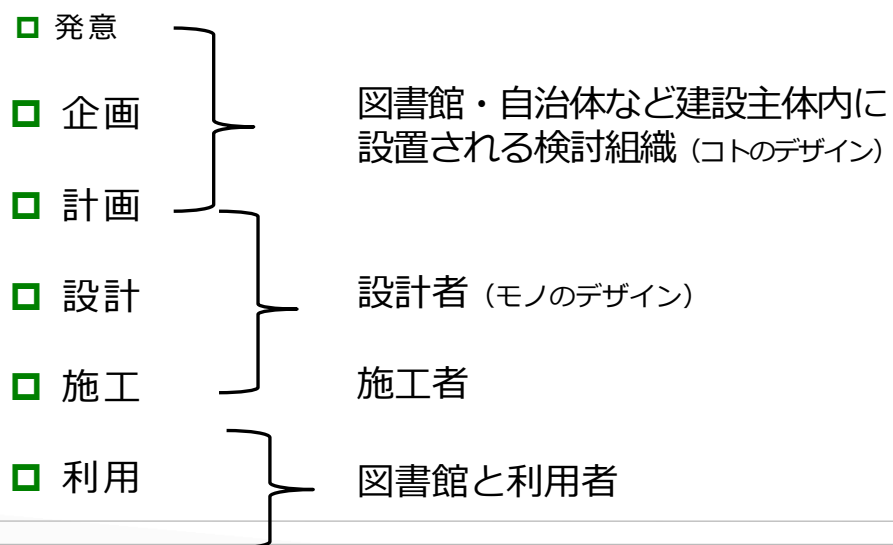


建設のプロセス

図書館施設計画論No.2

植松貞夫

建設のプロセスと担当者



発意

図書館設置のきっかけ

(2002年から2007年に未設置を解消した自治体96館の回答から)

きっかけとなった事由	きっかけに該当する	直接のきっかけとなった
教育委員会として設置の必要性を感じていた	40 (24)	5 (8)
住民・団体からの要望があった、議会への陳情があったなど	34 (21)	7 (12)
自治体の総合計画・地域計画等に記載された	29 (18)	12 (20)
首長が図書館設置を判断した、または選挙公約であった	20 (12)	23 (38)
周辺の自治体で設置されたことが刺激になった	15 (9)	-
自治体の何らかの有識者会議等で図書館の必要性が指摘された	13 (8)	5 (8)
議会が図書館設置の議決をした、または議員からの強い働きかけ	7 (4)	2 (3)
その他	7 (4)	6 (10)

資料：濱田幸夫：公立図書館を新規設置する市町村における取組みと課題（日本図書館情報学会：2008年）

企 画

- 建設意図の明確化
- 図書館の基本的事項（主要機能、運営、サービス、規模）
- 建設計画の概要（場所、開館時期、主要スケジュール）

フィジビリティ・スタディ

成果：「〇〇図書館建設基本構想」

担当者＝発注者＝図書館＋行政担当者＋外部

計 画

(原則は敷地の確定を待って)

- 要望事項と制約事項のとりまとめ
- 形態の基本について検討

成果：「〇〇図書館建築計画書」

担当者：発注者＝図書館＋行政各部＋外部

設 計

- (前 段) 設計条件、要求事項の把握
- (基本設計) 形態の創造
 - 〇〇図書館基本設計図書 ← 基本設計料
 - 担当者：企画・計画立案者と設計者の協働
 - 設計は設計者の単独行為ではない
- (実施設計) 細部の決定
 - 施工者への指示・情報伝達
 - 〇〇図書館実施設計図書 ← 実施設計料
 - 担当者：設計者

建築の設計とは

- 設計とは、要望事項と制約事項の把握、敷地や周辺環境等外部諸条件の把握、法的条件の整理、技術的可能性の検討等に基づき、設計者の意図を盛り込んだ形態を創造して、設計図に表現し、発注側（計画者）と施工者に伝達する業務
- 建築特計画書に記載された要望事項の把握には、十分に表現しきれていない部分等について、計画側との対話が不可欠であり、設計者としての分析を通しての提案についても、双方で協議を重ねることで成案に至るプロセスが大切

基本設計段階は「計画者」と「設計者」の協働作業

- 設計者：個人ではない

意匠（デザイン）、構造、設備（室内環境設備）、積算、家具、インテリア、サイン、造園などのチーム構成

設計者（チーム）を選ぶ

- 良い設計者抜きに良い建築はない
- 良い設計者を選ぶ： 選定委員会＋行政の担当者による設計者の選定
 - ・ 選定の要件
 - ・ 手続の公正性・透明性・合理性の確保（フェアである）
 - ・ 選定側：質の高い設計者を選べること（結果の有効性）
 - ・ 設計者：公平な機会が与えられる（機会の公平性）
 - ・ 双方：無駄な手間・時間を省く（手続の効率性）



結果の説明責任
首長、議会、市民への説得力が高い

設計者の選定方式-1

○設計者選定委員会の設置

1. 行政内部のみ 2. 外部有識者のみ 3. 混成

■ **特 命**： 設計者の能力、実績、作風、文章、評判等を調査し、委員会が自らの見識と責任において特定の設計者を指名する方式

- 協働体制の構築には望ましい
- ◇ 公平性・透明性について十分な担保が求められる
← アカウンタビリティ
- ◇ 実績主義のため、公平性の確保が困難
- ◆ 規模によってはWTOの政府調達協定により不可能

設計者の選定方式-2

● **設計競技（設計コンペ）**：複数の設計者から設計案の提出を求め、最も良い「案」を選ぶ方式。公開と指名

■ **手順** 要綱の公表 → 応募登録 → 建築計画書等情報・資料の提供
回答書の提供 ← 質問書の提出 ← 現地視察等設計条件の把握
設計案の提出 → 審査 → 審査結果と講評の公表

- 実績にとらわれず、新人、隠れた才能の発掘ができる
- ◇ 準備から審査・決定まで多大な事務量と時間を要する
- ◇ 設計者労力、経費、時間などの負担が大きい
- ◆ 計画者と設計者の対話・協議の場がない

設計者の選定方式-3

- **プロポーザル**：設計の方向性（考え方・スケッチ）、設計体制、実施方法や省エネルギーの方策など、設定した課題に対する技術提案を求め、ヒアリングを行うなどして選定する方式。 公開と指名
 - 文書主体が原則なので、双方ともに負担は軽減
 - 提案を通して人を選ぶ方式なので特命と同等の利点
 - ◇ 「疑似コンペ」に陥る傾向がみられる

設計者の選定方式- 4

- **資質評価方式**：実績・設計体制等「資質表明書」を基準に、ヒアリング、協議を重ねて選ぶ方式
- **設計料入札方式**：設計料の多寡を基準に選ぶ方法
地方自治体の設計者決定では最多の方式

施 工

(建設主体による) 建築確認 (申請)

工事業者の選定 (工事費の入札)

設計監理者の選定

◇ 施工 : ○○図書館建設工事

この段階でも詳細な設計は続く

設計者と図書館 : 家具のデザイン・選定、サインのデザイン

「設計変更」には、工事費の変更が必要になる場合も

図書館は広報活動、職員訓練等の開館準備

施設マネジメント : 館長の重要な職務

利用の過程で施設には継続的に手が加えられ続ける

- 建設段階からの地球環境・資源への配慮
- 長寿命化
- ランニングコスト・メンテナンスコスト (LCC) の縮減

◆ファシリティマネジメント : 建築とその環境のマネジメント :
これまでのように問題が発生した時に対処するマネジメントではなく、施設
そのものを経営資源と捉え、

- 利用者が満足して創造性を発揮できる快適かつ機能的な環境づくりと、
その継続・維持
- 設置目的・目標の達成の器として、資産の有効活用の実現
- 地域と調和し、地球環境、周辺環境の保全を尊重する
優良な社会資産として維持・管理

PFI方式による整備事業

PPP (Public Private Partnership) = 官民連携事業

指定管理者制度、PFI

PFI (Private Finance Initiative)

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の
促進に関する法律」 (1999年7月)

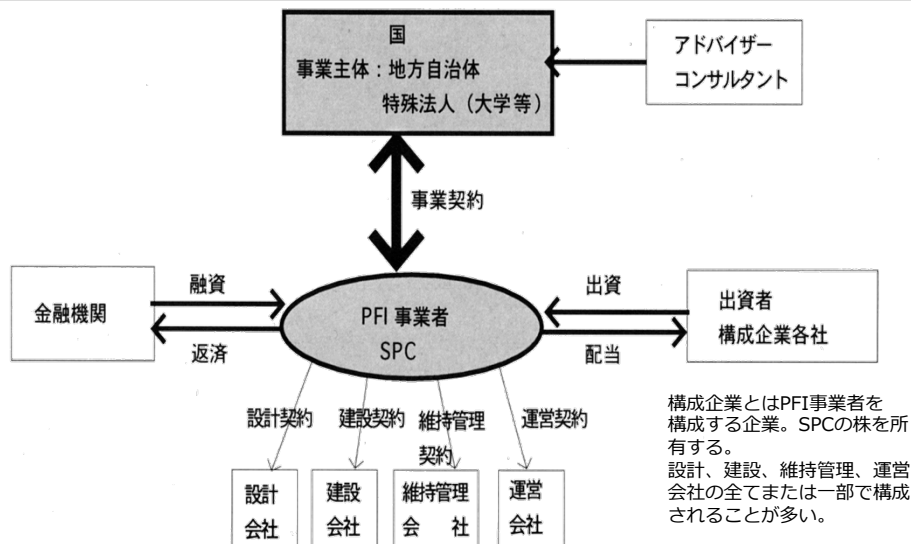
- 目的 : 公共施設の整備事業において、民間の資金、ノウハウ、アイデアを活用して、コストに比して最も効率的に、最も高いサービスを利用者に提供する
- 事業年限内における総コストの削減

VFM (Value for Money) : 総コスト縮減率

$(PSC - PFI) / PSC$: Public Sector Comparator

民間事業者のサービス提供に対し官が対価を支払う

PFI方式の事業スキーム



PFIにおける問題点-1（選定段階）

- ◇ 本来の趣旨：「ノウハウ、アイデア」を購入する
 - ◆ 「要求水準書」
 - 対価を支払うサービス内容を「要求水準書」として示す
 - 設計、建設（備品を含む）、維持管理、運営ごとに作成
 - 要求水準書に書き込み過ぎると民間のノウハウ、アイデアは発揮しづらい
 - 書かな過ぎると、求めるサービスが提供されないかという不安
 - ◇ 事業主体と応募者との対話が切れている
 - 「競争的対話」というプロセス
 - ◆ 「総合評価一般競争入札」
 - 価格的要素と非価格的要素との配点比率を如何に設定するか

PFIにおける問題点-2（対価支払）

- 実施状況サーベイランス・モニタリング・監視
- 要求水準通りのサービスが提供されているか？
- 「OK」で対価の支払　：　均等分割払い
 - SPCの経費は均等ではない
- 「求められていないサービス」の提供義務はない
 - 時代とともに変化する利用者ニーズが反映されるか
 - 新しい図書館サービスの提供が保障されるか
 - 量と質の両面で「成長する図書館」になり得るか

PFIにおける問題点-3（事業終了後）

- 公共側には図書館運営・サービスのノウハウが残らない
誰が引き継ぐか → 指定管理者
- 公共側の職員を残す
民間のノウハウ、アイディアの発揮を妨げない関与が可能か
- 民間側GMと公共側との協調関係のとり方は大きな課題

既存他用途施設の転用

- ・ 施設需要を充たす一つの選択肢と考えるべき
- ・ 良好な建築資産の形成 → 適正なメンテナンス
- ・ 施設機能の変化が急速な今日 → 施設の短命化
- ・ 適正なリニューアル
- ・ 建築基準法の耐震設計法との関係
- ・ 1981年施行の「新耐震設計法」以前と以後の建築
- ・ 以前の既存施設 → 耐震補強と改修工事
- ・ 以後 → 劣化診断、床荷重等安全性の検討と改修工事

既存施設の転用、判定基準

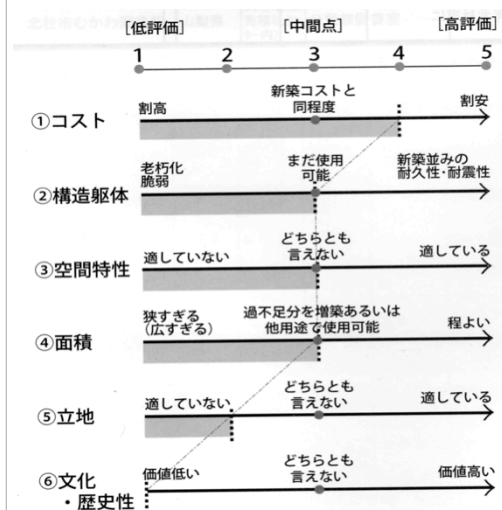


図1. 5段階評価と実現に踏み切る臨界点

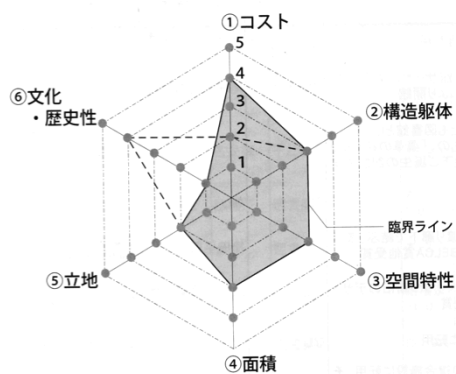


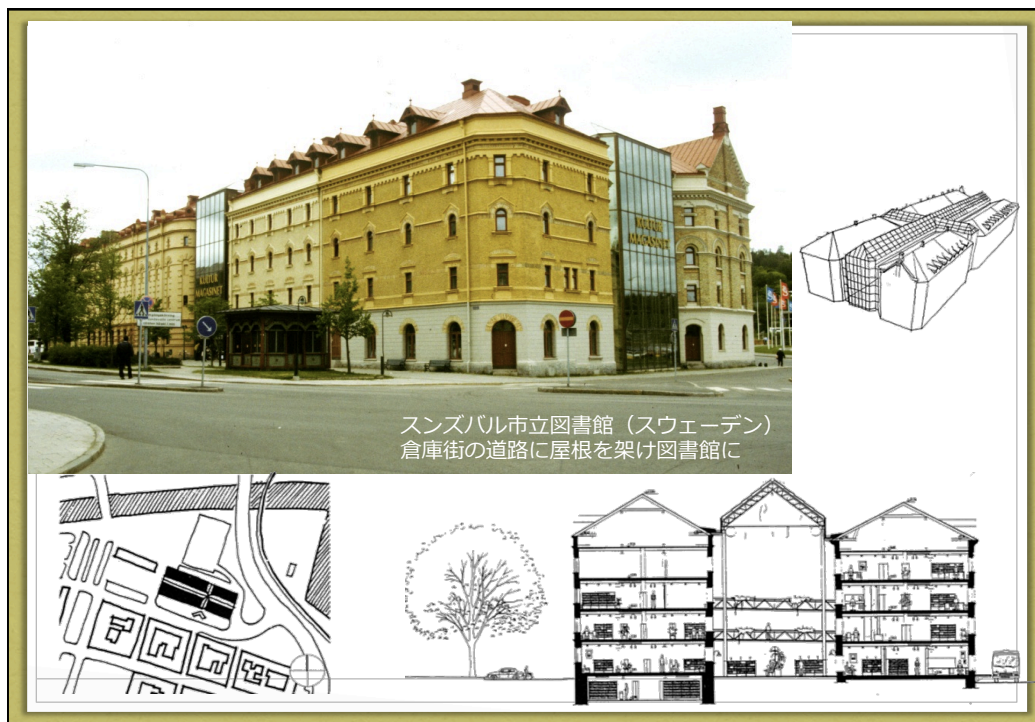
図2. 6つの指標と実現性の臨界ライン

資料: 第28回 図書館建築研修会テキスト22頁 柳瀬寛夫氏作成











シュバインフルト市立図書館

- ❑ 市内最古の建物の一つ穀物倉庫を転用改修+増築
- ❑ 開館年：2007年5月
- ❑ 設計：Bruno Fioretti Marquez（国際設計コンペ）
- ❑ 延床面積：1,281㎡（地上3階、地下1階）
- ❑ 資料数：約10万点（ほぼ全て開架）
- ❑ 職員総数：12名
- ❑ 設計者主導型の洗練されたリノベーションの典型



